

今後の博士後期課程学生への支援 事業の在り方（案）

令和7年6月
科学技術・学術政策局
人材政策課

今後の博士後期課程学生への支援事業の在り方（案）

- 博士人材活躍プランの目標達成に向けて、**博士後期課程進学への不安を解消する経済的支援等と博士人材の社会の多様な場での活躍促進**に関する支援事業の取組を日本人学生、留学生、社会人学生の対象毎に整理

社会の多様な場での活躍促進の方向性

○日本人学生

<特別研究員（DC）>

- ・研究を基にした起業を認める制度見直し
- ・SPRINGのキャリア支援プログラムの提供

<SPRING>

- ・研究費支援の階層化・差異化（優秀な学生に対する重点支援）
- ・進路支援・キャリアパス支援を充実



○社会人学生

- ・SPRINGによる優秀な社会人学生支援の充実（優秀な学生に対する重点支援）

○留学生

- ・SPRINGによる研究費支援の階層化・差異化（優秀な学生に対する重点支援）
- ・SPRING学生への進路支援・キャリアパス支援を充実

○共通的な取組

- ・博士を雇用する大学独自の取組の推奨
- ・SPRING採択大学における支援好事例の展開
- ・ガイドブックやロールモデル事例集の周知

進学への不安を解消する経済的支援等の方向性

○日本人学生

- ・特別研究員制度（DC）ブランド向上（研究奨励金の単価増等）
- ・SPRINGによる研究奨励費の支援、及び、研究費支援の階層化・差異化（優秀な学生に対する重点支援）
- ・SPRING採択大学の戦略的な取組の横展開

○社会人学生

- ・企業への税制優遇措置の周知等
- ・社会人学生の事例を把握し、好事例の展開

○留学生

- 特別研究員制度（DC）ブランド向上（研究奨励金の単価増等）
- ※ SPRINGによる研究奨励費の支援は行わない

SPRING（次世代研究者挑戦的研究プログラム）の方向性の基本的な考え方

<事業趣旨>

1. （主として）**日本人学生の博士後期課程への進学**を支援すること。
2. 在学中、**学生が安心して、自由な発想のもとに主体的に研究課題等を選びながら研究活動に専念**できるようにすること。
3. 博士号取得者が、アカデミア・産業界など、社会の多様な場で活躍できるよう、**大学がキャリア支援や環境整備を行う**こと。

<具体的な制度設計の考え方>

▶ 日本人学生

- 日本人学生が博士後期課程に進学しない要因の一つは、**生活への経済的不安と職業的な不安定さ**であり、本制度において、（必要最低限の）**研究奨励費（生活費相当額）**を支援する。
- 大学において、（SPRING支援学生を含む）博士後期課程学生を研究者又は研究の職に当たる者と明確に位置付け、**個人の研究活動に係る研究費を支援**する。
- 当該**研究費については**、分野や研究活動の内容・質に応じて、必要な金額が多様であることに鑑み、申請者の要望及び当該申請者の研究実績や成績等に基づき、**支給額を階層化・差位化**する。

▶ 留学生

- 本事業の趣旨を踏まえ、また、留学生自身はそもそも**日本の大学の博士後期課程進学を目的に来日かつ私費留学も多い**ことに鑑み、留学生に対する**研究奨励費（生活費相当額）**の支援は行わない。
- 博士後期課程における研究活動に関しては、**大学の研究活動の活性化・学生の質の向上**の観点から、日本人学生と同等に扱うことが適当あるため、留学生**個人の研究活動に係る研究費を支援**する。
- ただし、申請者の要望及び当該申請者の研究実績や成績等に基づき、**支給額を階層化・差位化**する。

▶ 社会人学生

- 企業等の組織・機関に所属しており、生活費相当額として十分な水準の給与を支給されている者には、研究奨励費（生活費相当額）の支援は行わない。ただし、（組織・機関に所属しつつも、）給与等を受給されていない等の博士後期課程進学者については、引き続き、支援対象とする。
- 博士後期課程の研究活動については、**大学全体の研究活動の活性化・学生の質向上**の観点から、他の学生と同等に扱うことが適当であることに鑑み、社会人学生**個人の研究活動に係る研究費を支援**する。
- ただし、申請者の要望及び当該申請者の研究実績や成績等に基づき、**支給額を階層化・差位化**する。

特別研究員（DC）の方向性の基本的な考え方

<事業趣旨>

主に**アカデミアで活躍する優秀な研究者を育成する事業**として引き続き実施すること。

<今後の具体的な取組>

➤ 優秀な修士課程学生をアカデミアに惹きつける取組の充実

- 民間企業における初任給の賃上げ等も踏まえ、本制度のブランドを維持・向上させるためにも、**研究奨励金（月額20万円）の単価増等を検討・実施する。**
- 事業趣旨を踏まえ、博士課程からアカデミアにおけるキャリアの見通しを高めるため、特別研究員（DC）採用者について特別研究員（PD）との接続を高める取組を検討する。

➤ 優秀な研究者に育つ環境の充実

- 特別研究員（DC）として認められた研究計画に基づく活動が着実に進んでいることを確認するなど、一定の条件の下で、**研究成果を基にした起業を認めるよう、制度的な見直しを行う。**
- 異分野や海外の研究者との交流機会の充実・拡大や、現在、大学において実施されているSPRING学生に対するキャリア支援プログラムに特別研究員（DC）学生の参加を促すための取組を推進する。

(参考) 博士課程学生支援の施策体系 (3つの柱)

次世代人材育成WG (第3回)
(令和7年6月5日) 資料2-2より

① トップ層の若手研究者の個人支援

【主な取組】 特別研究員事業 (DC)

支援額：240万円 (+ 科研費最大150万円応募可能)
+ 最終年度の在籍者*に特別手当36万円/年
(* 採用期間中に優れた研究成果を上げ、更なる進展が期待される者)

支援規模：約4,100人

令和7年度予算額：106億円

(日本学術振興会 (JSPS) の運営費交付金の内数)

➡ トップ研究者への登竜門として支援を充実

③ RA (リサーチ・アシスタント) 経費の適正化

【主な取組】 創発的研究支援事業 (博士課程学生等へのRA支援充実)

支援額：最大240万円 (RAとしての労働対価)
支援規模：約300人 ※既に採択した課題への支援を含む。

令和5年度補正予算額：6億円

(科学技術振興機構 (JST) 創発的研究推進基金)
別途、大学ファンドの運用益も充当

➡ 適正な対価の支払いを当たり前!

※競争的研究費等からの、適切な水準でのRA経費の支給を推進

② 所属大学を通じた機関支援

【主な取組】

博士後期課程学生の処遇向上と研究環境確保 (SPRING)

○ 優秀で志のある博士後期課程学生が研究に専念するための経済的支援 (生活費相当額及び研究費) 及び博士人材が産業界等を含め幅広く活躍するためのキャリアパス整備を一体として行う実力と意欲のある大学を支援する。

支援額：原則290万円

(生活費相当額・研究費とキャリアパス整備費を含む)

支援規模：約11,100人

令和5年度補正予算額：499億円

令和7年度予算額：0.3億円 別途、大学ファンドの運用益も充当

博士国家戦略分野の若手研究者及び博士後期課程学生の育成 (BOOST: 次世代AI人材育成プログラム)

○ 国家戦略分野への挑戦を志す研究者・博士後期課程学生に特化した支援事業 (以下博士支援抜粋)

支援額：原則390万円

支援規模：約400人

令和5年度補正予算額：70億円 (全体213億円)

➡ 博士人材の多様な活躍に向けて、経済的支援とキャリアパス整備を一体的に実施

【参考】第6期科学技術・イノベーション基本計画

2025年度までに、生活費相当額 (年180万円以上) を受給する博士後期課程学生を従来の3倍 (約22,500人) に増加

(参考) 今後のSPRINGにおける支援の在り方 (案)

<事業趣旨>

1. 主として**優秀な日本人学生**の**博士後期課程**への**進学**を支援すること。
2. 在学中、**学生が安心して、自由な発想のもとに主体的に研究課題等を選びながら研究活動に専念**できるようにすること。
3. 博士号取得者が、**アカデミア・産業界**など、**社会の多様な場**で活躍できるよう、**大学がキャリア支援や環境整備を行う**こと。

対象	現行の支援内容及び見直しの方向性
日本人学生※	<p><研究奨励費 (生活費相当額)> ➡ 事業趣旨の観点から見直しを検討 180万円～240万円/年 (平均220万円/年)</p> <p><研究費> ➡ 優秀な学生に対する研究費支援の重点化など、支援の階層化を検討 0円は不可 (平均40万円/年)。 研究奨励費 (生活費) と研究費の合算は220万円以上。</p> <p>キャリア開発・育成コンテンツ費、大学事務費を含めて最大290万円/枠・年を支援。</p>
留学生 ➡ 国・地域の多様化に向けた取組の更なる促進	<p><研究奨励費 (生活費相当額)> ➡ 事業趣旨の観点から見直しを検討 180万円～240万円/年 (平均220万円/年)</p> <p><研究費> ➡ 優秀な学生に対する研究費支援の重点化など、支援の階層化を検討 0円は不可 (平均40万円/年)。 研究奨励費 (生活費) と研究費の合算は220万円以上。</p> <p>キャリア開発・育成コンテンツ費、大学事務費を含めて最大290万円/枠・年を支援。</p>
社会人学生	支援なし ➡ 優秀な学生に対する研究費支援の重点化など、支援の階層化を検討
特別研究員や国費外国人留学生等、他の支援を受給している学生	キャリア開発・育成コンテンツは受講可

※ 現在、企業から給与等を受給されていない等、生活費相当額を受給していない社会人 (例えば一度社会に出てから早期に企業等を退職し、博士後期課程に進学した学生等) も含む。